

情報理工学系研究科 卓越リサーチ・アシスタント（卓越 RA）募集のお知らせ

「情報理工学の創造的展開プロジェクト」大学院学生 【追加募集】

1 趣旨

情報理工学の学術及び技術の発展のなかで、昨年度創立 20 周年を迎えた情報理工学系研究科の研究・教育は飛躍的に充実してきました。近年は、情報理工学の先端研究の拡大と深化と併行し、社会協創や産学連携を通じた新たな価値創造に向けたプログラムや、社会課題解決に向けた取り組みも発展させています。さらに、多様性と包摂 (Diversity & Inclusion: D&I) は、社会のあらゆる側面で重要となっていますが、これは情報理工学系研究科にとっても最も重要な視点の一つとなっています。

この流れのなかで、情報理工学という学問領域のアウトリーチ活動や、様々な社会連携活動の重要性は、今、かつてないレベルに高まっています。具体的には、D&I に見られる活動の推進、本学の社会連携・産学連携プログラムのより一層の発展的拡大はもちろんのこと、本研究科において実際に活発に行われている様々な活動を、内外に発信することが、強く期待されています。

このような取り組みを、本研究科に学ぶ博士課程大学院生及び修士課程大学院生と、本研究科の教職員が一体となって取り組むことで、情報理工学系研究科において従来になかった新たな側面を開拓し強化したい—これが本プロジェクトの根底にあるマインドです。そのため、プロジェクト名称を「情報理工学の創造的展開プロジェクト」としています。

想定されている具体的な業務内容を下記に示します。これらの取り組みを通じて、新しいプロジェクトの企画・推進・実行力の涵養、情報理工学を取り巻く様々な視点の認識、情報技術の実践、などが実現されることはもちろんですが、プロジェクトに参加する他の大学院学生や教職員など、関係する幅広いステークホルダーとの人的コネクションが構築されることも大きなメリットになることが期待できます。

※ 情報理工学系研究科の産学連携プラットフォーム「UMP-JUST」の一環として行う研究プロジェクトであり、卓越リサーチ・アシスタントとして委嘱されます。卓越リサーチ・アシスタント制度は、本学における独創性及び高度な専門性を要する研究プロジェクト等の業務遂行に、選抜された特に優秀な大学院学生を参画させて、研究活動の効果的推進、研究体制の充実及び学術領域を俯瞰する能力の育成を図ることを目的としています。

2 委嘱内容

次の①～④に関連する業務にサポーターとして参画し、学生チームを編成し、協働・分担しながら調査研究・業務支援を行います。

①ダイバーシティ&インクルージョン (D&I)

情報理工学系領域におけるダイバーシティ&インクルージョン (D&I) の在り方、特に男女共同参画、次代を担う中高生・学部学生等が情報理工学の関心を高めるための方策などについて、研究・実践します。

【活動例】

- 男女共同参画のための ICT 活用の研究・実装（ウェブサイト、オンラインオープンキャンパス等のためのメタバース空間）

- 次世代を担う中高生・学部学生等への効果的な情報発信（アウトリーチ活動）の企画・実践。高校等への出前授業等の企画推進
- 女性教員・学生等による男女共同参画に関連するニュース記事の企画・作成・配信
- 教員と学生の男女比均等化に向けた調査・企画・実践

②サイエンスコミュニケーション実践

情報理工学系研究科における様々な先端研究の発信、社会との双方向のコミュニケーションの在り方等について情報科学技術、データサイエンス等を活用しながら調査・研究を行い、効果的なサイエンスコミュニケーションを実践します。

【活動例】

- 学生の視点を活かした効果的な SNS 活用等の企画・実施
- 動画編集、動画撮影、動画プログラムの企画・実施
- 若手研究者の注目度向上に向けた施策（教員・学生インタビュー、研究室紹介等を含む）の企画・実践
- 研究科に関する様々な取組や情報理工に関連する教育プログラム、研究組織等のビジュアライゼーション
- 先端研究の海外への発信

③産学連携

情報理工学系研究科の産学連携プラットフォーム UMP-JUST 等の活動を通して、企業関係者とも連携し、情報理工学による社会課題解決・価値創造に向けた研究を支援します。また、産学連携による各種アクティビティの業務補助、参画を行います。

【活動例】

- 企業の関心に応じた研究者情報の整理（研究論文、ジャーナル等）
- 学生による講演、ミニレクチャーの企画・実施
- 学内外の研究者等による講演会等の企画・運営支援
- 産学連携に関するイベント等の広報支援、学生視点での効果的な広報の企画・実践

④その他

その他、①～③に限られないさまざまな活動が考えられます。たとえば DX の推進、情報理工学の活動を発信するセミナーのサポートなどが考えられます。

3 委嘱期間

2022年8月以降、委嘱手続き完了次第～2023年3月までの指定する期間
（月20時間程度、曜日・時間帯は適宜調整）

4 支給月額

4万円（月額・固定）

※活動のための実費は別途支給（出前授業等における交通費など）

5 採用人数

6～10名程度を予定

6 参加のメリット

- 情報理工学系研究科の創造的発展に貢献できます。

- 学内の他専攻の学生、教職員はもちろんのこと、多様な人的ネットワークを形成できます。
- 自身の研究の社会実装の可能性等について検証できます。
- 領域横断、社会課題解決を踏まえた研究の視座が培われます。
- 企画力・コミュニケーション能力が格段に向上します。

7 応募期間

2022年8月1日以降、随時応募可能

※但し、委嘱者が決定次第、応募は締め切ります。

8 応募資格

応募時点において、東京大学大学院（情報理工学系研究科）修士課程又は博士課程に在籍している学生（休学者は除く）

9 応募方法

(i) リサーチ・アシスタント研究業務計画書（別紙様式を以下からダウンロード）

<https://www.i.u-tokyo.ac.jp/news/topics/2022/202208012082.shtml>

(ii) 活動・研究業績（様式任意 A4、2 ページ以内）

を作成し、下記の URL からアップロードしてください。なお、(i)では、上記2の委嘱内容①～④の実践に向けて、自身の関心領域や活動に向けた抱負または提案などについて、自由に論じてください。

なお、本応募に当たっては指導教員の許可を得てください。

<応募書類のアップロード先>

https://webfs.adm.u-tokyo.ac.jp/public/X_YLgKaIldqHHw51tKawwNqjZF34XszCNUFM08JmvPCs

注) PDF ファイルで提出してください。また、ファイル名の冒頭に氏名を入力してください。

例) 情理花子_リサーチ・アシスタント研究業務計画書.pdf

情理花子_活動・研究業績.pdf

10 マッチング方法

次のとおり、書面及び対話によるインタビューを実施します。

第1次 書面（上記9の応募書類による）

第2次 インタビュー（第1次後、連絡します）

11 注意事項

- (1) 委嘱期間終了後、リサーチ・アシスタント研究業務終了報告書を提出していただきます。
- (2) 他のリサーチ・アシスタント、奨励金等との併給は可能と想定されていますが、詳細は個別に確認します。
- (3) 申請書における記載内容について虚偽の記載をした場合は、採用後でも遡って採用を取り消し、給与の返還を求めることがあります。
- (4) 研究プロジェクトの内容に応じて、秘密保持や知財管理に関する誓約書の提出を依頼することがあります。
- (5) 応募書類は本応募の用途に限り使用し、個人情報には正当な理由なく第三者への開示、譲渡及び貸与することはありません。また、応募書類は返却しません。当方で責任を持って廃棄します。

(6) 対面によるインタビューのための旅費は支給しません。

12 応募先・問い合わせ先

情報理工学系研究科企画室 e-mail: kikaku@adm.i.u-tokyo.ac.jp

(プロジェクト担当教職員)

情報理工学系研究科 副研究科長・システム情報学専攻 教授 成瀬 誠

情報理工学系研究科 副研究科長・知能機械情報学専攻 教授 葛岡 英明

情報理工学系研究科 研究科長特任補佐・企画室長・企画調整担当課長 山田 健

情報理工学系研究科 広報室 副室長 土方 智美